

11月 こどもが不安を抱える要因 その2:周囲からの期待

優等生だった子であっても、不登校になることがあります。しかし、勉強ばかりして教室で孤立していたとか、学校よりも独学で勉強できればいいとか、そう思って不登校になったわけはありません。

成績優秀で、学級委員長などの役職も務め、部活やスポーツにも打ち込んできた子が、ある日突然、学校へ来られなくなることがあります。こうした子は一様に自分自身に何が起きたかわからず、最初はとまどいます。

少し学校を休んでから「エネルギーが出ない」「電池が切れた」「がんばりすぎた」ということを口にします。

なんでもできる優等生がゆえに周囲は期待します。本人も最初はそれを糧にしていたはずですが、いつのまにか重圧に変わっていくのでしょうか。心が擦り切れるまで周囲に自分を合わせ、いつのまにか動けなくなってしまうのです。

そんなとき周囲は、つい「今後もあなたらしくやれば大丈夫」「力があるんだから巻き返せる」と言ってしまう、よけいに重圧を本人にかけてしまいます。

周囲からの期待ですり減ってしまった子には「よくがんばったね」と認めることが大切です。そこから先の、次のステップは、本人が見つけてきます。

周囲の焦りや期待は禁物です。

次回のテーマは「冬休み前後に気をつけておきたいこと」を予定しております。ご期待ください。